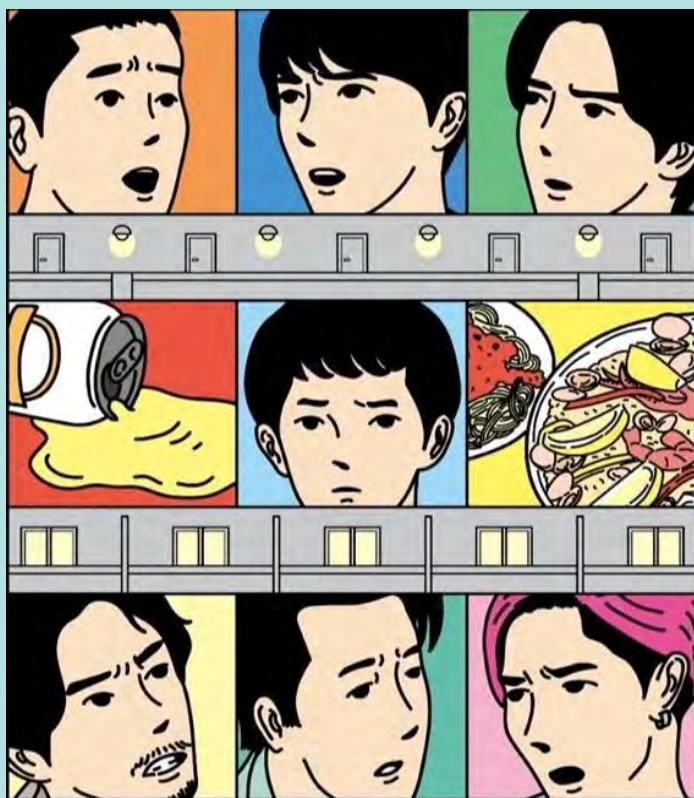




ボクらの ホームパーティー

川野邊修一監督

ろう者・聴者

『ボクらのホームパーティー』では川野邊監督がはじめてゲイであることを公表しながら製作した、ゲイコミュニティ／カルチャーの映画です。一方、『ジンジャーミルク』は自身の第一言語を（日本語とは違う）日本手話であるとする今井監督による映画で、異性愛の規範が当たり前であることにもどかしさを感じている大学生たちのドラマです。それに加えて、そのもどかしさはろう者と聴者の間の主に手話を介したコミュニケーションでも蓄積されていきます。みなさんが「多様性」や「異文化コミュニケーション」といった概念・ことばを、二作品の上映と両監督の対談を通して、血肉あるものとして感じ、自分や他者のセクシャリティや身体から生活・文化まで、考える機会になっていただけたらと思っています。

LGBTQ

注：両作品には性的なシーンが含まれています。

主催：専修大学国際コミュニケーション学部 宮本文研究室

2023年11月11日（土）

13:00 開場 13:30 開始

入場無料・予約不要・一般参加可能

専修大学 神田キャンパス
10号館10091教室

「これからの多様性
の在り方について」

『ボクらのホームパーティー』

× 『ジンジャーミルク』

映画上映会 + 監督対談

両作品とも日本語字幕付き
対談・質疑応答には手話通訳アリ

ジンジャーミルク

今井ミカ監督



「これからの多様性の在り方について」 『ボクらのホームパーティー』×『ジンジャーミルク』 映画上映会 + 監督対談

あらすじ

『ボクらのホームパーティー』(2022)



東京の片隅でホームパーティーが開かれた。そこに集まった7人のゲイ。

主催者カップルの彰人と靖、大学生の智也、ゲイバーの店子・将一、ゲイクラブの店員・直樹とその友達の正志、そして写真家の健一。楽しいはずのパーティーは少しずつ様子を変え、各々が閉じ込めていた悩みや気持ちが徐々に表面化していく…。

『ジンジャーミルク』(2021)



「自分はゲイかも」と玲衣は友人の健斗にカミングアウトされる。

2020年4月コロナ禍で緊急事態宣言が発令され、生活の変化を強いられながらも、大学生活を送るろう者と聴者の4人の姿を描く。彼らの甘くて辛い想いが交差した複雑な四角関係を綴るヒューマンドラマ。

監督紹介

川野邊修一



東京都江戸川区出身。法政大学情報科学部デジタルメディア学科卒業。映画美学校卒業。監督作品『凧』(2017)は21st CHOFU SHORT FILM

グランプリ・SKIPシティ国際映画祭入選。『ボクらのホームパーティー』は大阪アジア映画祭2022・第30回レインボーリール東京に入選。

今井ミカ



群馬県出身。第一言語が日本手話のろう者。大学卒業後、香港で2年間手話言語学を学ぶ。2018年映画『虹色の朝が来るまで』を制作、翌年劇場

公開。『ジンジャーミルク』で、映文連アワード優秀賞、うえだ城下町映画祭大賞、TAMA NEW WAVE 特別賞を受賞。CM制作や劇場映画の手話・ろう監修においても活躍中。

プログラム

13:00 開場

13:30 『ボクらのホームパーティー』
(10分間トイレ休憩)

15:00 『ジンジャーミルク』
(10分間トイレ休憩)

16:00 両監督による対談

16:30 質疑応答 (17:00 終了)

両作品とも日本語字幕付き

対談・質疑応答には手話通訳アリ

会場アクセス

水道橋駅(JR)西口より徒歩7分
九段下駅出口5より徒歩1分
神保町駅出口A2より徒歩3分

至水道橋駅

